

市長から

7月5日からの「平成30年7月豪雨」、いわゆる「西日本豪雨」は、西日本を中心に甚大な被害をもたらしました。

岡山県においても、平成になって最悪の被害をもたらした水害となり、床上、床下合わせて1万棟を超える住家の浸水被害が発生し、61人の方が亡くられました。この災害により被災された方や関係者の皆さまに改めて、心からお見舞いを申し上げます。

今回特に被害が大きかった倉敷市では、8月15日現在で1,494人の方が避難生活を余儀なくされており、今後の生活に不安を抱えている住民の方も多くおられます。現在、本市から倉敷市の避難所

には、看護師、保健師などの専門職、また一般職員も24時間体制で支援に入っており、物資の整理や、夜間の見回り、清掃業務などを行っています。

また、避難所以外にも、災害発生直後から消防本部救助隊員や水道施設課職員が被災地に入り、さらには現在土木技術職も災害復旧支援として被災地での支援活動を行っています。

一方で、多くの市民の皆さんが、社会福祉協議会などを通じ、ボランティアとして被災地の民家の片づけなどの支援に参加しています。また、さまざまな市民団体が自主的に義援金の募金活動をするなど、被災地支援の輪が瀬戸内市においても広がっています。本市においては、この豪雨における大きな被害はなかつ

たものの、7月6日深夜からの大雨特別警報が発令された時間帯には、干田川では氾濫危険水位を超え、また、吉井川でも避難判断水位を超えるなど、一時危険な状況もありました。

倉敷市や他の被災自治体の被害も決して他人事ではなく、本市としても今後、避難所や避難情報の伝達方法など

を早急に見直す必要があります。また、長期における避難所運営や他の自治体などからの受援体制についても整備していく必要もあります。

防災訓練や自主防災組織研修を通じ、改めて市民の皆さんと災害時に一人の犠牲者も出さない自助・共助・公助の取り組みについて、考えていく所存ですので、ご協力をお願いいたします。

市が管理する施設におけるブロック塀の安全点検調査

今年6月に発生した大阪北部地震において、登校途中の小学生在が倒壊したブロック塀の下敷きになるとい、痛ましい事故が起きました。

この事故を受け本市では、市が管理する185施設について、国土交通省が示す「安

用語の解説・備考

氾濫危険水位
河川が氾濫するおそれのある水位。

避難判断水位
避難情報発表の目安となる水位。

全点検調査事項」に基づく目視調査を施設管理を担当する職員が行いました。

現在、185施設のうち、鉄筋の有無や破損の影響の調査が必要な39施設について、専門業者に委託し、二次調査を行っています。

調査結果により対策が必要と判断された施設については、補強や撤去などの対策方針を決定し、早期に対策を図りたいと考えています。

とで、迅速で的確な被災地支援を行うという重要な役割を担っています。

市では、今後も災害時におけるさまざまな関係機関との連絡体制を整備し、迅速な災害対応を行っていきます。

市民まちづくり意識調査の取りまとめ結果

瀬戸内市が目指す将来(2040年)の姿に対する市民の意識を調査するとともに、第2次瀬戸内市総合計画の数値目標に対する現状値を把握することを目的として隔年で実施している「市民まちづくり意識調査」の本年度分調査結果の取りまとめができました。

前回調査と比較すると、「瀬戸内市は住みやすいまちである」と感じている市民の割合が75.9%から78.7%に、「瀬戸内市での暮らしが幸せである」と感じている市民の割合は75.3%から78.6%に、いずれも上昇しており、瀬戸内市での暮らしについては高

証明書のコンビニ交付

現在、コンビニ交付に対応している住民票の写し、印鑑登録証明書、課税証明書に加え、平成31年3月からは戸籍証明書と戸籍附票の写しを追加するため、地方公共団体情報システム機構に申し込みを行い、現在、電算業者がシステム構築を行っています。戸籍証明書、戸籍附票の写しのコンビニ交付における手数料も、これまでのコンビニ交付手数料と同様に市役所窓口より100円安く設定することとしています。

平成30年7月豪雨に対する市の災害対策

「平成30年7月豪雨」では、本市においても大雨特別警報や土砂災害警戒情報が発令されるなど、一時大きな被害が出ることも心配されました。結果的に住家に関しては、一部損壊が3件、床下浸水が1件で、人的被害はありませんでした。

今回の豪雨に対する本市の災害対策としては、大雨が予想された7月5日には幹部職員による防災注意体制を敷き、土のうや排水ポンプの設置などの準備を行いました。

そして、記録的な大雨による土砂災害などが予想された7月6日午後には、災害警戒本部を設置し、市内全域に避難準備・高齢者等避難開始を発令しました。

また、大雨特別警報が発令された同日深夜には、災害対策本部を設置し、市内全域に避難勧告を発令しました。その後、干田川が氾濫危険水位



市では、防災行政無線のほか、市ホームページや市メールマガジンなどで避難情報を発信しています

を超え、引き続き数時間の大雨が予想されたため、干田川流域に避難指示を発令しました。

今回の大雨による避難者数は、ピーク時で60世帯127人となり、合併後の災害対策の避難者数としては最大となりました。これは、市民の皆さんの災害時における危機管理意識の向上が表れているものと考えられます。

市では、今後も市民の皆さんの早めの避難を促すために、気象台や関係機関から迅速で正確な情報を得ることに、市民の皆さんへの適切な避難情報の伝達に努めます。

台風20号への対応

8月23日深夜から8月24日未明にかけて台風20号が、岡山県に最接近しました。この台風に関し、岡山地方気象台長から武久市長にホットラインで重大案件として、平成16年16号台風と同等の高潮が予想され、沿岸部を中心に大規模な被害が出るのが想定される旨、連絡がありました。

この想定などを踏まえ、8月23日午後5時に設置した災害対策本部は、市職員のほか、「災害対策現地情報連絡員(リエゾン)」として、岡山県、国土交通省中国整備局岡山河川事務所、瀬戸内警察署、陸上自衛隊日本原駐屯地から派遣された職員で、台風接近による警戒態勢を敷きました。

結果として、住家、非住家合わせて約40件の床下浸水被害がありました。人的被害はありませんでした。災害対策現地情報連絡員は、被災地の正確な情報を収集し、関係機関に報告するこ

長船美しい森への 有害鳥獣防護柵の設置

ここ数年の年間利用者数が約2万人とほぼ横ばい傾向で推移している長船美しい森ですが、近年、シカ、イノシシなど野生動物が美しい森の中に侵入してくるケースが発生しています。

市では、引き続き、美しい森の施設を安全に利用していただくため、今年度事業で有害鳥獣防護柵の設置を計画していましたが、地元との調整も終えたことから、専門家の意見などを参考に、効果的な設置場所を決定し、施設の利用が一段落する下半期に整備する予定としています。

また、これと併せて、県の



有害鳥獣防護柵の設置を計画している長船美しい森

事業を活用して緩衝帯としての里山空間を整備するなど、より親しみやすい空間を創出しながら、利用者の増加につなげていきます。

教育長から

市が寄附による購入を目指している「国宝 太刀 無銘 一文字 山鳥毛」が、寄託を受けている岡山県立博物館で、9月13日(木)から10月14日(日)まで特別公開されることとなりました。

市民の皆さんにも見ていただける機会となりますのでお知らせします。

4月に実施した 学力・学習状況調査の結果

本年度は、全国調査、県調査および市独自の調査を実施し、全国調査は、小学校6年生と中学校3年生の国語、算数・数学、理科の3教科を対象として実施しました。

また、県調査は、小学校3年生から5年生まで、中学校1年生の国語、算数・数学の2教科を、中学校2年生は、国語、数学、英語の3教科を対象として実施しました。市独自の調査は、中学校1年生の社会、理科の2教科を対象として実施しました。

その結果、全国調査については、平均正答率が小6、中3の両学年とも、どの教科においても岡山県とほぼ同程度でした。県、市調査については、どの学年も概ね目標値を超え、平均正答率も県以上ですが、一部の学年の教科で課題がみられました。また、同じ学年集団の経年変化を追跡したところ、小学校4、5年生と中学校2年生は、平均正答率が前年度よりも上がっていました。

学習状況調査では、学習面においては、自分で計画を立てて家庭学習をしている児童生徒は増加しています。生活面においては、家で宿題をする児童生徒の割合は県平均とほぼ同じですが、放

課後や週末の過ごし方として、テレビやDVDを見たり、ゲームやインターネットをしたりすることが多く、家庭と協力した計画的な生活の仕方を身に付けさせることが課題です。

学校施設の整備

郡久中学校北棟大規模改造工事は、5月末に本体工事を終え、2学期から改修した校舎の利用を本格的に開始します。現在、仮設校舎の解体作業に着手し、10月末までに全ての工事を終える予定です。

「公共施設等先進的CO₂排出削減対策モデル事業」による小学校の省エネ型空調設備やLED照明などの整備については、夏季休業期間に牛窓東小学校、牛窓西小学校、牛窓北小学校、裳掛小学校の4校で改修を終えました。また、幼稚園の保育室、遊戯室などへの空調整備についても、市内6園全てにおいて、夏季休業期間に工事を終える予定です。

今後は、牛窓東小学校と今城小学校のプール改修工事を予定しており、現在、工事の発注準備をしています。

学校施設における ブロック塀の安全点検調査

今年6月に発生した大阪北部地震により、ブロック塀が倒壊し、女子児童が亡くなる事故が発生したことを受け、市内の小・中学校12校、休園中の3園を含む幼稚園9園について、ブロック塀の点検調査を行いました。

そのうち小学校4校、幼稚園4園については二次調査を実施中ですが、緊急に対策が必要と認められた一部のブロック塀については補強・撤去工事を行ったほか、その他の施設においても注意喚起を図る措置を行っています。今後、二次調査の結果により、対策が必要と判断された施設については、補強や撤去などの対策方針を決定し、早期に対策を図りたいと考えています。

「こどもひろば」に 参加してみませんか！



「こどもひろば」を定期的に市内で開催しています！

「こどもひろば」とは、市と市民の皆さんが協働し、子どもの遊びを通して、『人と人、人と地域がつながる場、みんな子どもを育て、自らも育つ場』の実現を目指している取り組みです。

平成28年度から、邑久スポーツ公園冒険の森を主会場として、市民のボランティアと一緒に「外遊び」の場づくりに取り組んできました。

毎回、子どもと大人と一緒にアイデアを出し合い、さまざまな遊びを楽しんでいます。「親子」「友達同士」「見守り役」など、さまざまな参加が可能です。皆さんも、自然の中で子どもと一緒に遊ぶひとときを過ごしてみませんか。



邑久スポーツ公園冒険の森で開催された「こどもひろば」

次回の「こどもひろば」

木のブランコや綱渡り、木や落ち葉で作った秘密基地など、森にあるものを生かして遊びましょう(小雨決行)。

▷日時 10月28日(日) 午前10時~午後2時

▷場所 邑久スポーツ公園冒険の森

▷参加費 無料

※申し込みは不要です。

園健康づくり推進課 子ども包括支援センター

☎0869-24-8033



綱渡りを楽しむ子どもたち

地域の皆さんの参加を待っています！

「こどもひろば」の参加者は、乳幼児から70代までさまざまです。

「子どもの遊ぶ姿から元気がもらえます。『今日は見守りにだけ来ました』と、手づくりの『見守り名札』を持参して来られた男性もいました。それぞれ無理のない形で参加して下さって、すごくうれしかったです」と話してくれたのは、こどもひろば応援隊の上野洋子さんたち。

合い言葉は、『君がいるから一緒に遊べる。あなたがいるから安心する』です。どんな参加の仕方でもいいので、ぜひ気軽に来てみてください！



こどもひろば応援隊の皆さん